

はすだね通信 第56号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成28年6月10日発行

イネネクイハムシの防除について

イネネクイハムシは、ほ場内で幼虫の状態越冬します。そのため、昨年多発生したほ場では、今年の被害が拡大することが予想されます。
発生に注意し、適期防除に努めましょう！

イネネクイハムシの生活サイクル



幼虫

冬 ~3月 畦畔や土中で越冬

春 4~5月 地中を移動して根を食害（植付け時期）

上旬

根の外側にマユを作りサナギになる。サナギの期間は7日程度。

6月 中旬

下旬

上旬

夏 7月 中旬

下旬

上旬

8月 中旬

上旬



サナギ

成虫が発生する。成虫は浮葉やウキクサ等を食べ、葉の裏に産卵する。

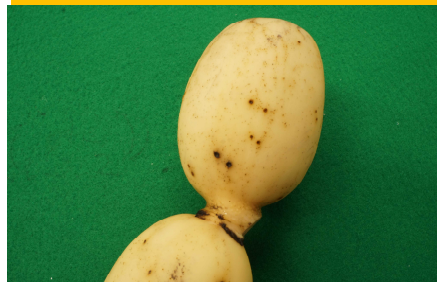
卵は7日程度で幼虫となり、土中に入り根やレンコンを食害する。



成虫



被害痕



被害を受けたレンコン

防除適期

イネネクイハムシは7月上旬頃から成虫や新しい幼虫が発生するので、この時期が防除適期となります。発生が予想されるほ場では、7月上旬を目安に防除を行って下さい。なお、この時期のレンコンのイネネクイハムシの防除には「トレボン粒剤」が使用できます

この資料の作成にあたっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意し、使用に際しては注意事項をよく読んで下さい。

農薬は正しく安全に使いましょう！

レンコンの効率的施肥技術について

農業総合センター園芸研究所は、現在主流となっているレンコンの品種・栽培条件における養分吸収特性を明らかにしました。また、肥料メーカーと共同で、現在のレンコン栽培にマッチしたレンコン専用肥料を開発しました。

今回は、開発された専用肥料の特徴と、レンコンの効率的な施肥技術について紹介します。

レンコンの窒素吸収と専用肥料の窒素溶出

下の図に示すとおり、専用肥料の窒素溶出はレンコンの窒素吸収パターンと適合するように作られています。そのため、レンコンが必要とする時期に、不足することなく養分を供給できます。

リン酸やカリについても同様に、レンコンの養分吸収に見合った量が配合されており、開発された専用肥料は、現在主流となっているレンコン栽培に合わせて作られています。

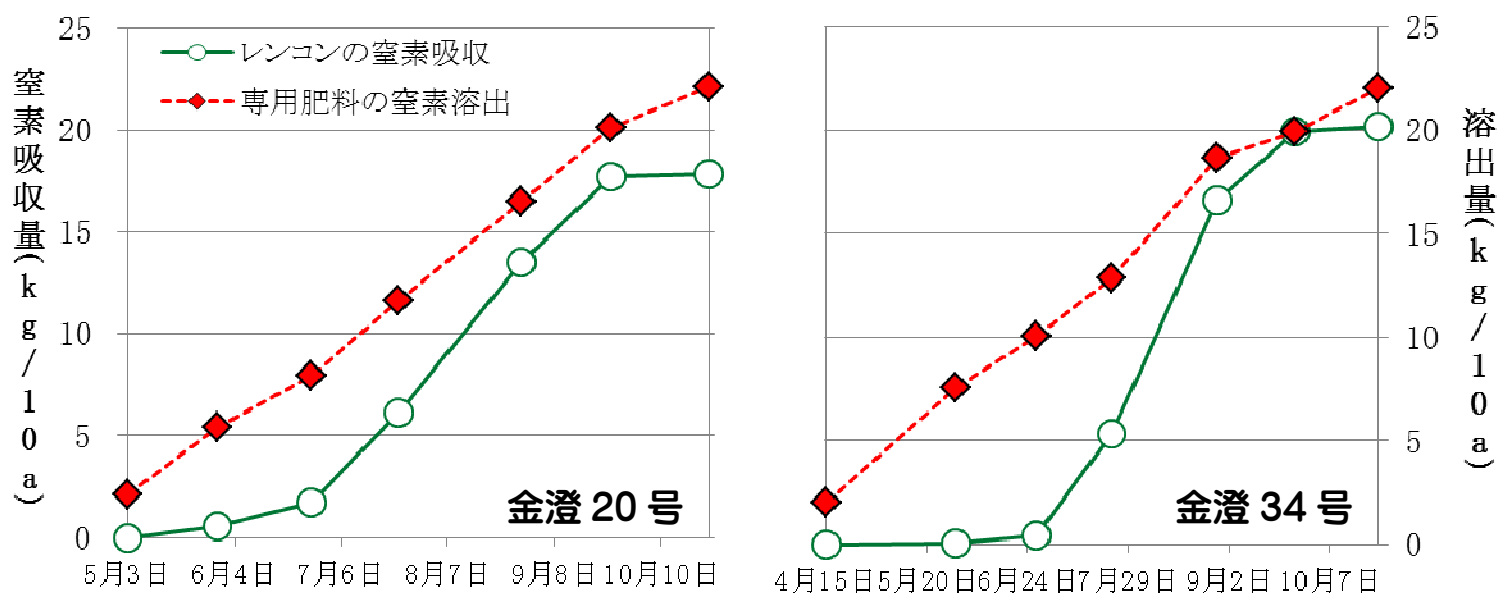


図. レンコンの窒素吸収と専用肥料の窒素溶出

ほ場の収量性から施肥量を決定しましょう！

レンコンの収量性には、施肥量よりもほ場条件の方が大きく影響します。谷津田や転作田では収量が劣ることが多いですが、このような場合に施肥量を増やしても増収には直結しません。

ほ場ごとの適切な施肥量は、そのほ場の収量性(過去の出荷実績等)から求めることができます。下の表を参考に、ほ場の収量性に応じて施肥量を決定しましょう。

レンコンの収量は気象の影響を受けやすく、年次変動が大きくなることがあるため、施肥量を求めるための出荷実績は、過去2~3年分を平均して求めましょう。収量性に見合った施肥を行うことで、レンコンの収量・品質を維持しながら、施肥コストを削減できます！

表. ほ場ごとの収量性に対する施肥量の目安

過去2~3年の 10aあたりの出荷重量(kg)	10aあたりの施肥量の目安(kg)		
	窒素	リン酸	カリ
1,600	12	6	16
1,800	15	8	20
2,000	18	10	24
2,200	21	11	28
2,400	24	13	32

環境にやさしい農業のため、水のかけ流しはやめましょう！